

# 前立腺がんの再発後の治療効果予測についての研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2020年6月13日 ~ 2025年4月30日

〔研究課題〕 早期前立腺がんにおける根治術後 PSA 再発における病理学および分子生物学的予測因子探索研究

〔研究目的〕 帝京大学医学部附属病院泌尿器科では、泌尿器疾患の原因を明らかにし、正しく診断し、より有効な治療法を開発することを目標として、さまざまな研究を行っています。このような研究活動の基礎になるのが、実際に当科を受診された患者さんの診療録（カルテ）の情報と過去の試料です。患者さんの診療録に記録されている各種の臨床情報、検査結果、治療内容と経過などの医学情報と、保存されている検体の残余試料は、病気の解明のために大変貴重なものです。そこで、当科では、過去に泌尿器科を受診された患者さんを対象として、これらの情報を解析し、患者さんの診療に役立つ情報を取得し、医学の発展に貢献したいと考えています。

前立腺癌は、前立腺全摘術を実施後に再発することがあります。その場合、放射線治療やホルモン療法などを行います。患者さんごとにどちらの治療が適しているかを判定することは、現在の医療では困難です。本研究では、当院を含めた複数の施設が共同で、再発後の治療の効果を予測する因子を探索することにより、今後の治療の参考となる知見が得られると考えています。

〔研究意義〕 再発後の治療の効果をあらかじめ予測できるようになれば、今後同様の患者さんが現れたときに、治療方法を選択する際の根拠となる知見が得られる可能性があります。

〔対象・研究方法〕 過去に前立腺癌に対して前立腺全摘を実施し、その後再発した患者さんのうち、2004年から2011年の間に当院を含む多数の施設で行われた JCOG0401 研究に登録することに同意頂いた患者さんが対象です。保存されている摘出組織検体を用いて染色を行い、たんぱく質の発現を調べます。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院を含めた36施設（主管：筑波大学大学院医学研究科）

〔個人情報の取り扱い〕 本研究は、過去の診療録調査と、保存されている過去の検体の残余試料だけを使用する研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼすことはありません。氏名・生年月日・ID番号などの個人情報はすべて個人を特定できないように加工されてから解析されますので、個人情報がもれることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人を特定可能な情報はすべて削除いたします。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響はすることはありませんし、研究にご協力していただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。また、ご協力いただける場合でも謝金等は発生いたしません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

## 問い合わせ先

研究責任者： 帝京大学医学部泌尿器科学講座 主任教授 中川徹

研究分担者： 病院准教授 金子智之

所属： 帝京大学医学部附属病院泌尿器科

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL : 03-3964-1211 (代表) [内線 33709]